

バグダッド日誌(1月14日)

○ 5次要員、バグダッド到着

- ・ 昨夕、5次要員がバグダッドに到着した。先日来の雨の影響が残り、あちこちに水たまりやぬかるみが残っている。朝夕は、10度以下に気温が下がる。申し送り期間中、4・5次の要員全員が健康状態を良好なまま維持できるように気をつけたいと思う。
- ・ 日本隊として、レンタカー1台を常に保有しているが、一人あたり3個のコンテナとバックや装備品を運ぶとなると車が足りない。コアリッションから2台借りてもまだ足りない。エル・サルバドルLO(海軍大佐(1月1日昇任))が、「俺もいってやるよ」と自ら運転して輸送支援に来てくれた。大佐を車ごと借りて5次要員の装備品を輸送した。
- ・ 5次要員を迎え、我々が当地についた日のことを思い出した。我々は砂嵐の影響で航空機が遅れ、夜中の23時過ぎに到着した。50度を超す気温の中、日陰もないムバラク空軍基地で13時間も待たされ、干物のようになりながら当地に到着した事がつい昨日のことに思い出される。暑さと砂埃の中、6ヶ月の勤務に不安を感じたのは私だけではなかったと思う。5次要員も寒さと泥の中、同じように不安を持っているのだろう。
- ・ 今朝から、申し送りを開始した。各国LO達のみならず、米軍スタッフや豪州等関係者が、「お前の交代者をいつ紹介してくれるんだ？」と声をかけてくる。バグダッドに来た当初は、仕事や環境に不安を持っていることを彼らも理解しているから、「何か手伝うことはないか」、「分からないことがあったら、いつでも聞いてくれ」とエル・サルバドルの大佐同様に嬉しいことをいってくれる。

○ 4次要員、帰国迫る……バグダッド出発まで、「あと〇日！」

- ・ 「1月には帰る？……と思うよ」、昨年7月に当地に来て以来、「いつまでいるの?」、日本人の勤務期間はどのくらい?」と聞かれるたびにそう答えていた。年が明けてから、「いつまでいるの?」と同じ質問をしてくるが、今度の質問で向こうが求めているのは、「月単位」の答えではなく、「正確な日付」である。
- ・ 先日カレンダーに赤丸を付けて以来、朝、コアリッション事務所に行くと、各国LOが「あと〇日だな!」と挨拶してくれる。彼らが我々の帰る日を数えてくれる。まるで「自動逆暦」があるようだ。「俺はあと〇+30日」とカザフスタンLOがニコニコしながらいう。
- ・ 5次要員を紹介すると、「よかった! 交代の日本人が来てくれた。」、「これでお前はいつ帰ってもいいぞ。」という。各国のLO達にとってコアリッション事務所に「日本人」はなくてはならない存在らしい。ありがたいと思うが、「日本もいつまでも、イラクにいるわけにはいかないよ」と冗談にもならない冗談で返す今日の頃である。